

<p><ミーティングルームへどうぞ> 青葉台駅から歩 12 分のところに、ミーティングや事務作業の拠点ができました。会員の塩井さん提供のセシリアハウスです。月、木の午後には集まっています。どうぞお出かけください。 (詳細 P6)</p>		<p>2004 年 4 月 24 日発行 NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会 227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11 TEL:045-962-0824 FAX:045-962-1933 E-mail: hands-ty@07.itscom.net http://www.jca.apc.org/~hands/</p>
--	---	---

レオポルドとドネッサ

— ビラーンの医療と自立を支える会 (HANDS) 医療支援の事例から —

ジェセリン・トリポリ (ジョジョ/CMB ヘルス担当)

4 年前にキアミでヘルスセミナーを実施したときのことで、参加者の一人から、8 歳になる息子レオポルドのことで相談を受けました。全身のむくみがひどく発熱や呼吸困難も見られるということでした。

CMB が支援する患者の多くは低所得 (無収入) 証明があれば入院費が安くなる公立病院に送られます。しかし、レオポルドのような場合は設備の整った私立病院での検査が必要です。

ほどなく HANDS から特別医療費が届きました。診断結果はネフローゼ症候群、腎臓がほとんど機能していないことがわかりました。1 週間の入院加療で当面の危機は脱しましたが、その後も 1 ヶ月 1-2 回の定期検査と投薬が必要でした。

HANDS の追加支援を受けて治療が続けられました。キアミから G.サントスまでは、雨期の増水期には 2 日かかることもあります。経費には付き添う家族の交通費や食費補助も含まれています。

嬉しいニュースをお伝えします。今年 1 月の検査の後、主治医にしばらく投薬をやめてみようと言われました。入院時を含めて休学は 1 年間だけ。学校が大好きな 12 歳のレオポルドはこの 6 月に 5 年生になります。他の子どもたちと同じように、がんばって学校を卒業して家族のために働くという夢をもてるようになりました。



(写真: ジョジョとレオポルドー昨年 8 月の定期検査の日に一)

次にランプソンのドネッサについてお伝えします。彼女は昨年度はじめまで HANDS 奨学生 (ハイスクール 4 年) でしたが、妊娠がわかり寮を出て村に戻りました。夫の家も大変貧しく、わずかなコーン・米と、あとはイモ類の食事です。十分な栄養もとれないまま今年 1 月に出産しました。不眠症のような症状が 2 週間続き、食欲不振や不安感を訴えたので家族が私のところに相談に来ました。

3 月 1 日、両手を縛られたドネッサが連れてこられました。錯乱状態で家族さえ見分けがつかなくなっていました。すぐに神経科のアルマダ医師のところへ連れて行ったところ、産後ノイローゼ (post-natal blue) の診断でした。栄養補給と投薬が必要で目が離せない状態だったので、CMB クリニックに隣接する部屋 (山のコミュニティーから出てきた患者や家族が一時的に宿泊できるスペース) に寝泊りさせました。



3 月 19 日、指示通りきちんと薬を飲ませること、何よりも栄養あるものを食べさせることを付き添いのものに伝えて村に帰しました。

この 4 月 14 日、ドネッサの診察に付き添いました。医師の話ではよくなっているがまだ会話に首尾一貫性がかけるとの診断でした。服薬もまだ必要です。

投与された医薬品代とドネッサの滞在費などは HANDS の定期医療支援費を充当しました。完全な回復には時間が必要ですが、家族は今とても感謝しています。

(写真: ハイスクール 3 年の時のドネッサ)

(文責: 山崎)

ドネッサのケースから学ぶヘルスワーカー育成の重要性

ドネッサの場合は、貧困に加えて、学業半ばの妊娠・出産に周辺の理解を得られない孤立感があつたようです。ランプソンに限らず対象 12 コミュニティいずれもまだ妊産婦の心身ケア体制はできていません。定期支援予算内、又は、少額の追加支援でのヘルススタッフ能力アップ研修を現地と検討する予定です。なお前号で紹介のモロ民族ヘルスワーカー育成は助成を受けられなかったため当面事業は延期します。(山崎)